

解 答

1 (D)	2 (C)	3 (A)	4 (C)	5 (C)	6 (B)
7 (A)	8 (B)	9 (D)	10 (A)	11 (D)	12 (C)
13 (C)	14 (B)	15 (A)	16 (A)	17 (B)	18 (B)
19 (A)	20 (B)				

1. 「私は担任の先生に感謝しています。いつも私にとても親切にしてくれたからです」

be kind to ~ 「～に親切だ/～にやさしい」

He is kind to his wife.

(彼は奥さんに優しい。)

cf. **It is kind of A to do** 「～するとは A は親切だ」

It's very kind of you to come.

(わざわざどうもすみません。)

《→病気見舞いとか忘れ物を届けてくれた人に対して言う》

2. 「メアリーはいくつかの就職面接に落ちたが、母親の支援があるので、依然として楽観的なままである」

► **with** には **because of** 「～のために」や **thanks to** 「～のおかげで」に似た意味がある〔状況的理由〕。

[例] **With** his knowledge of English, he had a comfortable tour around the world. (英語を知っていたので彼は世界を不自由なく旅した。)

3. 「私が生徒に学園祭が中止になったことを告げるべきか、それともあなたが生徒に告げた方がいいですか？」

► **them** の後ろには **that ... cancelled** が省略されている。

would rather do 「むしろ～したい」

I would rather stay in London much longer than a week.

(私はむしろ 1週間よりずっと長くロンドンに滞在したい。)

► 否定形は **would rather not do** 「むしろ～したくない」。not の位置に注意。

I would rather not have the operation unless it is absolutely necessary.

(本当に必要でなければ私は手術を受けたくない。)

4. 「ホッケーの試合が始まりすらしないうちに足を怪我したので、ジュリアが自分のチームを手伝うためにできることはほとんどなかった」

► 設問文は, Julia could do () to help her team が()を修飾する形に変形して名詞節を作ったもの。空欄の直後には目的格の関係代名詞が省略されている。前半の理由を表す分詞構文内で述べられている内容を踏まえると、空欄にはできることが「ない」という否定的な語が必要なので, (C)little が正解。(D)less は単独では名詞にならない。

■ 名詞 little の用法

名詞 little は不可算名詞で、否定的に「少ししかないもの/ほんのわずかしかないもの」という意味である。

They did little or nothing to help the children.

(子供たちを助けるのに彼らはほとんど手を貸さなかった。)

5. 「その映画はあまりにも退屈だったので、私はいつの間にか眠ってしまった」

► **without even knowing it** で「知らないうちに/いつの間にか」という意味である。

without doing 「～しないで」

She went out without saying goodbye to me.

(彼女は私にさよならも言わずに出て行った。)

6. 「浜辺で風が強くなるといけないから、ジャケットを持っていったらどう？」

► 選択肢は、接続詞と前置詞である。空欄は前後の文をつないでいるので、前置詞である(D)because of は不可。残る 3つの中で、文脈より(B)in case「～の場合に

備えて」を選ぶ。

□ **in case S+V** 「～するといけないから/～の場合に備えて」

I think you had better carry an umbrella *in case it rains.*

(雨が降るといけないから、傘を持っていったほうがよい。)

7. 「スーザンの彼氏に会ったことある、レン? とても素敵な人よ」

► 空欄後の **nice guy** という「形容詞+名詞」を修飾するのは、冠詞を含む(A)such a が正解である。so は副詞なので、直後に「冠詞+名詞」はおけない。

注意すべき冠詞の位置

(1) ふつう冠詞は名詞の前に置かれ、名詞に形容詞がついた場合には、

「**a[an]**+形容詞+名詞」の語順になる。[例] *a pretty girl* 「かわいい女の子」

(2) 形容詞に副詞 **very** がついても冠詞は一番前に置かれ、

「**a[an]**+**very**+形容詞+名詞」の語順になる。[例] *a very pretty girl*

(3) 副詞が **so/as/too/how** の場合は、

「**so/as/too/how**+形容詞+**a[an]**+名詞」の語順になる〔文語表現〕。

[例] *so pretty a girl, so strange a story* 「奇妙な話」

too honest a boy 「とても正直な少年」

(4) 形容詞としての **such** が後ろに名詞を伴うと、「**such+a[an]**+(形容詞)+名詞」の語順になる。[例] *such a pretty girl (= so pretty a girl)*

8. 「スマートフォンのカメラの品質が向上したので、人々は以前ほどにはカメラを買わなくなった」

► 可算名詞複数形の cameras に much や a lot がつくことはありえない(a lot of ならば可), 正解は(B)である。設問文は, people have not been buying as many cameras の後に as they used to buy といった内容が省略されていると考えられる。

cf. **as many** ~ 「[先行する数詞を受けて] (それと)同数の~」

He made ten spelling mistakes in as many lines.

(彼は 10 行の中でつづりを 10 か所間違えた。)

► 「(それと)同量の~」は **as much** ~。

She mixed two cups of flour with as much water.

(彼女はカップ 2 杯の小麦粉を同量の水と混ぜた。)

9. 「お伝えするのが残念なのですが、別の会議が土曜日に開催予定です」

► hold a meeting 「会議を開催する」という関係なので、受動態の(C)と(D)に絞られる。(C)「開催されてしまっているだろう」という完了形の意味合いが必要なわけではないので、単純未来形の(D)が正解。

□ **regret to do** 「残念ながら～する」 (= **be sorry to do**) [未来]

I regret to say that I cannot accept your offer.

(残念ながらあなたの申し出をお受けできません。)

► **regret doing** 「～したことを後悔する」 [過去]

10. 「スーパーにいた時、忘れずに牛乳を買ってくれた?」

► When で始まる副詞節の時制が過去なので、時制の一致の観点から、主節の述語も過去形であると考えられる。よって(A)did が正解。

□ **remember to do** 「～することを覚えておく/忘れずに～する」 [未来]

□ **remember doing** 「～したことを覚えている」 [過去]

目的語が動名詞と不定詞で意味が異なる動詞

(1) **remember** タイプ [動名詞が過去のこと、不定詞が未来のこと]

{ □ **remember doing** 「～したことを覚えている」
 { □ **remember to do** 「～することを覚えておく/忘れずに～する」
 { □ **forget doing** 「～したことを忘れる」
 { □ **forget to do** 「～することを忘れる」

<p> $\begin{cases} \square \text{regret doing} 「～したことを後悔する」 \\ \square \text{regret to do} 「残念ながら～する」 \end{cases}$ </p> <p>(2) need タイプ [動名詞が受動, 不定詞が能動]</p> <p> $\begin{cases} \square \text{need doing} 「～される必要がある」 (= need to be done) \\ \square \text{need to do} 「～する必要がある」 \end{cases}$ </p> <p> $\begin{cases} \square \text{want doing} 「～される必要がある」 (= need doing) \\ \square \text{want to do} 「～したいと思う」 \end{cases}$ </p> <p> $\begin{cases} \square \text{deserve doing} 「～されるだけの価値がある」 (= deserve to be done) \\ \square \text{deserve to do} 「～する価値がある/～してもおかしくない」 \end{cases}$ </p> <p>(3) その他</p> <p> $\begin{cases} \square \text{try doing} 「試しに～してみる」 \\ \square \text{try to do} 「～しようと努力する」 \end{cases}$ </p> <p> $\begin{cases} \square \text{mean doing} 「～することを意味する」 \\ \square \text{mean to do} 「～するつもりである」 (= intend to do) \end{cases}$ </p> <p> $\begin{cases} \square \text{go on doing} 「～し続ける」 \\ \square \text{go on to do} 「さらに続けて～する」 (= proceed to do) \end{cases}$ </p>
--

11. 「先生にレポートを批判されて、マークはがっかりした」
- ▶ 直後に by があるので、空所には形容詞化した過去分詞が入る。(B), (C)は純粋な形容詞なので, felt angry **with** 「～に怒った」, felt anxious **about** 「～が心配になった」といった前置詞とともに用いられるのが普通。元が他動詞の過去分詞であることを考えると, discourage「～(人)を失望させる」は成立するが, regret「～(人)を後悔させる」は成立しないので, (D)が正解。
12. 「アンナは新しい仕事を探しています。前の仕事をクビになったからです」
- ▶ 選択肢の意味はそれぞれ, (A)refused「拒否される」, (B)prohibited「禁止される」, (C)dismissed「解雇される」, (D)prevented「予防される」。文意より(C)が正解。
 - **be[get] dismissed[fired] from** ~ 「～をクビになる [解雇される]」
 $(= \text{be discharged from } \sim)$
She was dismissed from her post.
 (彼女は解任された。)
13. 「法律によって、車を運転する人は全員、運転を始める前にシートベルトを締めなくてはなりません」
- ▶ fasten の直訳は「～を固定する」だが, fasten *one's seatbelt* で「シートベルトを締める(着用する)」という意味になる。
 [例] *Fasten your seatbelt, please.*
 (シートベルトをお締めください。)
 (A)attach A to B で「B(物)に A(物)を付け加える」, (B)shut「～を閉める」,
 (C)fasten「(物)をしっかり固定する」, (D)connect「～をつなぐ」
14. 「東京の人口は京都(の人口)よりもかなり多い」
- ▶ 空欄を省いても文として成立しているので、空欄には文を修飾する要素が入ると予想される。解答は、直後にある larger という形容詞を修飾する語が入るので、副詞である(B)considerably「かなり」, (D)considerately「思いやりをもって」に絞られるが, (B)でないと意味が通らない。considerably は比較級の強調に用い, 他に **much/far/still/a lot** などもよく用いられる。
 [例] *It's considerably more important.*
 (それはずっと重要だ。)
 (A)considerable「(数量などが)かなりの;考慮に入れるべき」, (C)considerate「思いやりのある」
15. 「ダッドリーはパソコン用に新しいプリンターを買ったばかりだが、全然きちんと動いてくれない」

- ▶ 「(機械などが)動く,機能する」ことを work または function と言う。(B)use, (D)utilize の「～を使う」はともに他動詞。(C)は serve as ~の形で「～として役に立つ」

[例] When the camera *is functioning* properly the green light comes on.

(カメラが正常に作動しているときは緑色のライトが点く。)

16. 「ジムは熱心にトレーニングをしています。8月のテニス大会を目指しているのです」

- ▶ (A)「～を目指す」が正解。(D)は前置詞 to を伴えば「～を楽しみにする」という意味になり、空所に入れられる。(B)は他動詞の用法では「～を解決する,～を考え出す,(計画などが)うまくいく」, 自動詞の用法で「(試合に備えて)一連のトレーニングをする」という意味がある。(C)「～(予定などを)練り上げる」

□ **aim for[at]** ~「～を狙う」

The government *aims at* a drastic tax reduction this year.

(政府は今年、大幅減税を目指している。)

□ **work out** ~「(問題を)解く(=solve)/(試合に備えて)一連のトレーニングをする」

□ **move up** ~「～を上[階上]に移す/～を昇進させる」

□ **look forward to** 名詞[動名詞] 「～を楽しみに待つ/～を期待する」

17. 「卒業式は3月21日10時から始まります。式開始の少なくとも10分前にはご着席ください」

- ▶ 卒業式が話題になっているので、文脈より(B)ceremony「儀式、式典」が適当。graduation ceremony で「卒業式」という意味。

その他の選択肢は、(A)experience「経験、体験」, (C)incident「事件、出来事」, (D)situation「状況」という意味である。

18. 「ナンシーについてトビーが私に言ったことを絶対に忘れないわ。だから、私は絶対彼を許せないのよ」

- ▶ say は第3文型の動詞で, Toby said () to me about Nancy が, () Toby said to me about Nancy と変形して名詞節を作った形である。したがって, ()には said の目的語だった名詞が入る。(A), (D)は関係副詞なので不可。(B)what が先行詞を含む関係代名詞(= the thing which)なので正解。(C)that にこの役割はできない。

□ **That is why** 節「そういうわけで～(→それが～する理由です)」

Michael works very hard. **That's why** I respect him.

(= I respect Michael. **That's because** he works very hard.)

(マイケルはとても一生懸命働く。だから私は彼を尊敬している。)

19. 「東京からのバスは早朝に駅に着いた」

- ▶ reach「～(場所)に到着する」のみが第3文型をとれる。他の選択肢を同様の意味にするためには、前置詞を伴って(B)come to ~, (C)arrive at[in] ~, (D)get to ~の形で使わなくてはならない。

[例] We *reached* the hotel at midnight.

(私たちは真夜中にホテルに着いた。)

20. 「大統領の乗った飛行機は6時40分に成田空港を離陸する予定です」

- ▶ plane「飛行機」という主語に対して take off「離陸する」はよく使う表現である。

□ **take off** 「(飛行機などが)離陸する」(↔land「着陸する」)

Our plane *took off* at exactly twelve o'clock, and *landed* on time at Kennedy Airport.

(私たちの飛行機は12時ちょうどに離陸し、ケネディ空港に定刻に着陸した。)

▶ take off には「(服などを)脱ぐ/とる」の意味の他動詞用法がある。この場合の反意表現は **put on** ~「～を着る」。

[例] He entered the house and *took off* his coat.

(彼は家に入って、コートを脱いだ。)